

氏名： 杉田 孝夫 (SUGITA Takao)
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
職名： 教授
学位： 文学修士 (1978 東京教育大学)
専門分野： 政治学、西洋政治思想史、
URL： <http://researchers.ao.ocha.ac.jp/0013525326.html>
E-mail： sugita.takao@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

西洋政治思想史/ドイツ啓蒙/ドイツ観念論/カント・フィヒテ・ヘーゲル/家族と市民社会
History of Political Thought / German Enlightenment / German Idealism / Kant · Fichte · Hegel /
Family and Civil Society

◆主要業績

総数 (7) 件

- ・ (訳書)
『フィヒテ全集第 21 巻 社会哲学講義』 (共訳) 哲書房, 2009 年 3 月 (「法論の体系」「政治的著作の構想からの抜萃」本文 335-566 頁, 訳注 575-588 頁, 解説 602-617 頁)
- ・ (翻訳)
ディーター・シュヴァープ著, 杉田孝夫・田崎聖子訳「家族の概念史」(I) 『生活社会科学研究』 第 15 号, 2008 年 10 月, 33 頁 -49 頁
- ・ (口頭発表)
「フィヒテにおける自由の法=権利問題」
社会思想史学会第 33 回大会, セッション「ドイツ観念論の社会経済思想 (2)ーフィヒテ」における報告, 2008 年 10 月 25 日, 慶応大学
- ・ (口頭発表)
「『ドイツ国民に告ぐ』はどのように読まれ、どのように読まれなかったのか」日本フィヒテ協会第 24 回大会シンポジウム「『ドイツ国民に告ぐ』の歴史性を問う」での提題報告, 2008 年 11 月 22 日, 広島大学

◆研究内容 / Research Pursuits

ドイツ啓蒙とドイツ観念論の政治思想史研究

- (1) とくにカント、フィヒテ、ヘーゲルの政治思想の諸問題をかれらの共通枠組みである「自由と共同性」の位相を同時代的文脈の中で再検討し、その歴史的固有性を明らかにする作業を行っている。
- (2) 第二の主題として、カント、フィヒテ、ヘーゲルの家族観を、ドイツにおける「近代家族」の形成過程を示すテキストと捉えて、家族の構成と機能を分析し、同時代の社会構造の転換とどのように構造的に連関するものであるかを明らかにする作業をおこなっている。この作業は必然的に家長のもとの近代家族と家長を主体とする近代社会の構造的秘蔵を明らかにするものであり、近代におけるジェンダーの思想的作為性と歴史性を明らかにする作業でもある。
- (3) 以上の二つの側面からの研究によって現代社会における自由と共同性をめぐる問題状況を克服する理論的展望を得ることを目指している。とくに政治思想史の立場から個の生成と家族と市民社会の構造的連関を研究している。

I am chiefly interested in the intellectual history of modern Europe, and with this area I specialize in two related fields. One is the political thought of Modern Germany, especially German Enlightenment and German Idealism. The other is the genesis of Modern Family concept in Germany.

◆教育内容 / Educational Pursuits

基礎講義「政治学入門」では、市民のための政治学という観点から、新入生を対象に、現実の政治過程を事例に取り上げて、それを手掛かりに政治の意味、メカニズム、機能をできるだけ分かりやすく、講義した。

「生活政治学Ⅰ」「生活政治学Ⅱ」では第2学年を対象に、現代デモクラシーの主体である生活者市民にとって必要な政治学の基礎理論を講義した。

「政治とジェンダー」は3年次を対象に、フィヒテ『自然法論』付録の家族法をテキストにフィヒテの家族論と性差論を検討した。

「生活政治学演習Ⅰ」「生活政治学演習Ⅱ」ではホプズ『レヴァイアサン』をじっくり読む。

大学院「生活政治論」「生活政治論演習」では、ハーヴァーマス『公共性の構造転換』『事実性と妥当性』を輪読した。

I lecture on Scope and Theory of Political Science, and on the foundation of Modern Civil Society and Family., and run two seminar. One is for the Theory of Civil Society(in undergraduate senior course) and another for intellectual history of Europe(in postgraduate course).

I have supervised Intellectual History in Modern Europe as well as in Modern Japan. I am also interested in the questions of the public and the private and gender, which are new perspectives in politics.

◆研究計画

- (1) フィヒテ全集『第16巻 封鎖商業国家論』および『第17巻 ドイツ国民に告ぐ』の担当部分を仕上げるのが当面の仕事である。
- (2) 『ドイツ観念論の家族観—ドイツにおける近代家族概念の成立—』および『フィヒテの政治思想』をそれぞれ一冊にまとめたいと考えている。
- (3) ドイツ啓蒙の思想家のうち、ヤコービとフンボルトの政治思想、およびフンボルトのジェンダー論については、18世紀ドイツ思想を理解するうえで重要な対象であるにもかかわらず日本ではまったく手つかずの状態にある。ドイツ観念論の政治思想史研究に一区切りついたならば、ヤコービとフンボルトの研究を行いたい。

◆メッセージ

政治学は古来教養の学として長い伝統を築いてきました。近代以前においては統治者の教養の学あるいは統治の技術でした。政治学は役人や政治家になるための学問であるという見解が生まれた原因はそのような伝統に起因します。しかし統治者＝被治者の時代であるデモクラシーの現代においては、政治学はまず第一にすべての市民の教養の学でなければなりません。

政治の世界は、人間が生きている間は絶えず試され、問い続けなければならない実践知の世界です。そのように考えると私たちはいつでもどこでもなんらかの政治のただ中にいることに気づきます。人生は、そこで得られる疑問や経験を手掛かりにして「善く生きる」ための知の探求の旅です。政治学はそのような旅の指南書の一つと言えます。